

京都世界水大賞2027 グローバルパートナー募集要項 (協賛案内)



◆京都世界水大賞とは



歴代受賞団体

- 第1回 Gram Vikas (インド)
(2006年、第4回世界水フォーラム・メキシコ)
- 第2回 Watershed Organization Trust (インド)
(2009年、第5回世界水フォーラム・トルコ)
- 第3回 Katosi Women Development Trust (ウガンダ)
(2012年、第6回世界水フォーラム・フランス)
- 第4回 Environment and Public Health Organization (ネパール)
(2015年、第7回世界水フォーラム・韓国)
- 第5回 Charité Chrétienne pour Personnes en Détresse (トーゴ)
(2018年、第8回世界水フォーラム・ブラジル)
- 第6回 Pragati (インド)
(2022年、第9回世界水フォーラム・セネガル)
- 第7回 Youth Sanitation Concern (インドネシア)
(2024年、第10回世界水フォーラム・インドネシア)
- 第8回 今後募集予定
(2027年、第11回世界水フォーラム・サウジアラビア (予定))

- ・**途上国の水問題に挑む草の根団体***1を、京都市・世界水会議（WWC）・日本水フォーラム（JWF）が、世界160以上の国々、延べ75,000人*2が集う「世界水フォーラム」において、**顕彰・支援するもの**です。
- ・授賞式においては、各国の大臣等含む政府関係者・国際機関・企業等の参加があることから注目を浴びる大舞台であり、SNSや報道に取り上げられています。
- ・2003年、第3回世界水フォーラムが日本（琵琶湖・淀川流域）で開催されたことを契機に、京都市とWWCにより創設されました。以来3年に一度開催される、世界水フォーラムにあわせて実施されます。
- ・水資源、衛生、サステナビリティの最前線で未来を切り拓く活動に光を当て、世界の政府・国際機関・企業とともに、持続可能な未来を築くことを目指しています。

*1草の根団体とは、地域住民や一般市民が自発的に立ち上げた、開発途上国の経済・社会開発や復興に協力する目的で活動する民間団体、または、社会変革や政策改革を目指して自発的に活動する市民主体の団体のことを指します。“Grass roots organization”

*2第10回世界水フォーラム発表

◆大賞受賞の草の根団体について (選考は京都市・JWF・WWC・トップ協賛企業による)



整備前のトイレ（損壊）



整備されたトイレ



衛生習慣の指導

2024年受賞団体

Youth Sanitation Concern

(YSC, インドネシア)

※京都世界水大賞2024においては、「文化」と「コミュニティ」に寄与し、持続可能な活動であるか、という点で審査を実施。

【公募・受賞団体等について】

応募期間：2023年6月1日～2023年9月15日

応募件数：70件（30カ国）

受賞団体：Youth Sanitation Concern（ユースサニテーションコンサーン、YSC）

／ランブン州バンダールランブン地区（インドネシア）

大賞賞金：200万円

協賛企業：旭酒造株式会社（現：株式会社瀬祭）、株式会社島津製作所

（YSCの評価ポイント）

- ・コロナ禍という衛生に関して難しい局面の中、地域のインフラ整備（公衆トイレ）を行い、周知キャンペーンを通じて地域住民へ衛生習慣を定着させたこと。
- ・プロジェクト実施後に地域住民が連携して施設を適切に管理したこと。

◆京都世界水大賞2024（前回）授賞式の様子



受賞団体YSC Iffah Rachmi氏



旭酒造(株)（現：(株)獺祭）
桜井一宏社長（トップスポンサー様）



WWC理事
Ahmet Mete Saaci教授



JWF副会長 沖大幹教授



京都市 松井孝治市長

【主催者からの祝賀】

【授賞式】

- ・2024年5月24日 第10回世界水フォーラム閉会式の中で、20分間にわたり授賞式を実施。
（参考：第10回世界水フォーラム 2024年5月18日～25日開催 *来場者 延べ75,000人（160カ国）） *第10回世界水フォーラム発表
- ・ステージ登壇：JWF副会長 沖大幹教授、旭酒造(株)（現：(株)獺祭） 桜井一宏社長（トップスポンサー）、WWC理事 Ahmet Mete Saaci教授、京都世界水大賞2024受賞団体YSC Iffah Rachmi氏、京都市松井市長（ビデオ）
- ・桜井社長は会場内1,000人に向けて“酒造りと水の文化”についてスピーチされた。
- ・授賞式最前にはバスキ大臣（インドネシア_公共事業・国民住宅省）も同席され、各国の大臣等含む政府関係者・国際機関・企業や現地メディアや報道も多く、世界最大の水の舞台ということからも注目を浴びる式典となっている。

【実施概要】

主催：①京都市、②世界水会議（WWC、仏NGO、世界水フォーラム主催者）、③日本水フォーラム

内容：途上国の水問題に挑む草の根団体から、優れた活動が続ける団体を顕彰する。

目的：途上国における草の根活動の質の底上げを図るとともに、草の根活動の重要性を広く世界に発信する。

主催者間の主な役割分担：①審査基準、②授賞式会場確保、③団体募集と経費負担

賞金：大賞1団体へ200万円（予定）

現時点での スケジュール（予定）	実施事項	備考 *第11回世界水フォーラムの準備状況によっては本スケジュールが後ろ倒しになる可能性も ございます。予めご了承ください。
2025年10月	団体公募開始	事前告知、PV動画公開（英語）
2026年1月	公募〆切	一次：書類審査（形式）→二次：書類審査（内容）
2026年5月	最終審査	選考委員会にて評価
2026年9月	大賞公表	プレスリリース（日英）
2027年3月	授賞式	サウジアラビア・リヤド 第11回世界水フォーラム閉会式（予定）にて
2027年9月	実施報告書	作成・公表（日英）

*第11回世界水フォーラムの準備状況によっては、本スケジュールが後ろ倒しになる可能性もございます。その際は改めてお知らせいたします。予めご了承ください。

◆京都世界水大賞2027ご協賛メニュー



【ご協賛メニュー】

お申込み受付：2025年7月～2026年11月 / ご協賛期間：ご協賛開始～2028年3月 （*税別）（単位：万円）

ご協賛特典 / ご協賛金額	50	100	200	500
① ウェブサイト（日英）へのロゴ・社名掲載（貴社ウェブサイトへのリンクも設置）	○	○	○	○
② 最終報告書（日英）への社名掲載 （主催者各代表者署名付きの公式報告書、2027年9月末発行予定）	○	○	○	○
③ プレスリリースへの社名掲載（2026年9月発信予定）	—	○	○	○
④ 授賞式の賞金ボードへのロゴ掲載。公式写真使用权	—	○	○	○
⑤ プロモーション動画（PV）へのロゴ掲載 （2025年10月の受賞団体公募開始時に公開予定、2027年3月授賞式会場で上映予定）	—	—	○	○
⑥ 京都世界水大賞公式ロゴ使用・呼称権	—	—	○	○
⑦ 主催者共同記者会見の共催権	—	—	—	○
⑧ 【A】 または 【B】 を選択いただけます。 【A】 JWFプレミア会員にご入会 （会員様には各種サービス有。100万円分は初年度年会費として別途承ります（消費税対象外）） 【B】 「Charity for Water」ご参加 （JWFの国際貢献活動全般をご支援頂くプログラム。ウェブサイト等にロゴ・社名掲載。100万円分はのご協賛金として受領）	—	—	—	○
⑨ トップスポンサー特典：授賞式のプレゼンター、最終審査選考委員	トップスポンサー様は、2026年7月1日（金）現在を以て決定いたします。			

*ご寄付（税制優遇対象）や、50万円未満の小口ご協賛なども承りますので、詳細は別途お問い合わせください。
*ご協賛開始時期により、製作等日程が終了した特典はご提供できない場合がございます。予めご了承ください。
*日本水フォーラム団体正会員の皆様には割引がありますので、別途お問合せください（会員様限定情報）。

2025年6月 | 5

◆京都世界水大賞2027 ご掲載イメージ（例、1 / 2）



①ウェブサイト ・ ④賞金ボード



<<ページ中略>>

- 京都世界水大賞2024概要
- ・応募者: 70団体
 - ・賞金: 200万円
 - ・共催: 京都市、世界水会議(WWC; World Water Council)、日本水フォーラム
 - ・京都世界水大賞2024協賛企業・団体: 旭酒造株式会社、株式会社 島津製作所



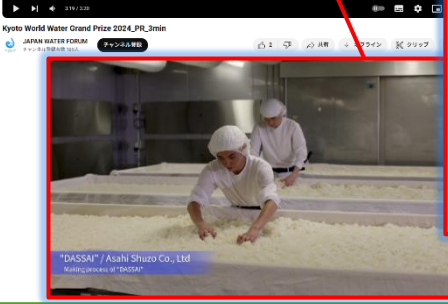
②実施報告書 ・ ③プレスリリース ・ ④授賞式の賞金ボード



◆京都世界水大賞2027 ご掲載イメージ（例、2 / 2）



⑤プロモーション動画（授賞式会場にて上映）



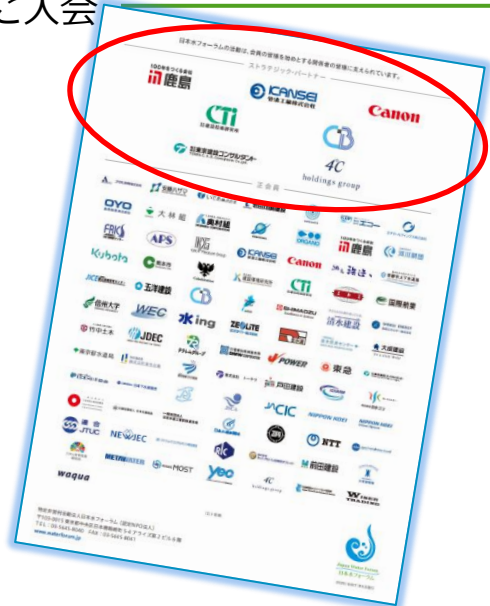
*社名ロゴ、または商品ロゴでも可

⑥京都世界水大賞公式ロゴ ・ ⑦主催者共同記者会見実施



3種類
カラー、モノクロ

⑧JWFプレミア会員ご入会



令和6年度 年報
*社名ロゴ掲載

⑨授賞式プレゼンター等

各国首脳方



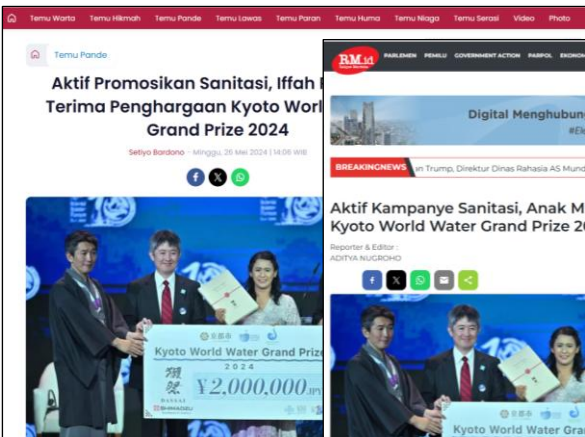
パートナー企業様 スピーチ
株式会社獺祭 桜井一宏社長



京都世界水大賞2024授賞式



現地メディアの反応



Aktiv Promosikan Sanitasi, Iflah Terima Penghargaan Kyoto World Grand Prize 2024

Setiyo Bandono - Minggu, 26 Mei 2024 | 14:08 WIB

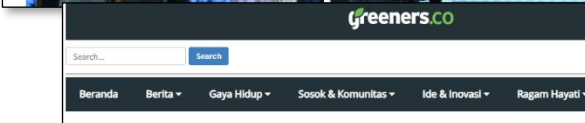


Digital Menghubungkan Kita dengan Banyak Hal
#ElevatingYourFuture

Aktiv Kampanye Sanitasi, Anak Muda Ini Sabet Kyoto World Water Grand Prize 2024

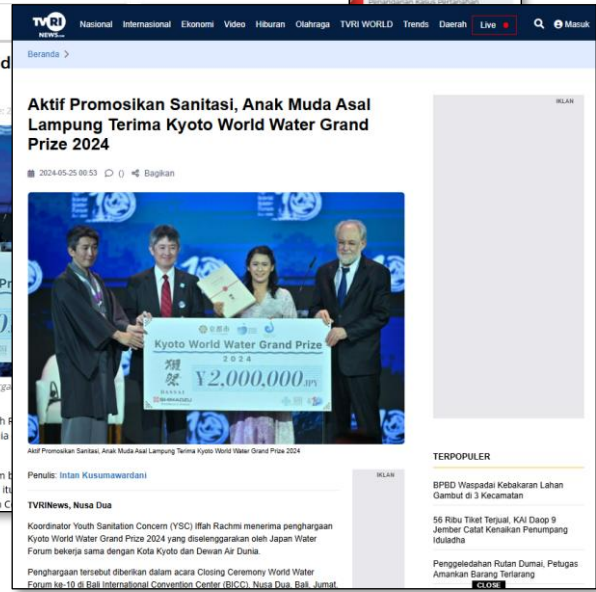
Reporter & Editor: ADITYA AUGUSTOCHANDRO

Jumat, 24 Mei 2024 22:21 WIB



Pemuda Asal Lampung Raih Kyoto World Prize 2024

Diposting pada 27 Mei 2024



Aktiv Promosikan Sanitasi, Anak Muda Asal Lampung Terima Kyoto World Water Grand Prize 2024

Penulis: Intan Kusumawardani

2024-05-25 00:53

Koordinator Youth Sanitation Concern (YSC) Iflah Rachmi menerima penghargaan Kyoto World Water Grand Prize 2024 yang diselenggarakan oleh Japan Water Forum bekerja sama dengan Kota Kyoto dan Dewan Air Dunia.

Penghargaan tersebut diberikan dalam acara Closing Ceremony World Water Forum ke-10 di Bali International Convention Center (BICC) Nusa Dua, Bali, Jumat.

世界水会議（WWC）のinstagram投稿



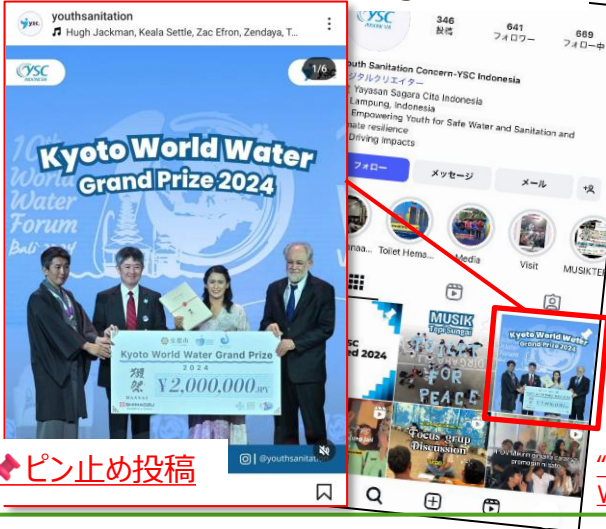
Anak Muda Indonesia Raih Kyoto World Water Grand Prize 2024

賞金 ¥2,000,000 JPY

いいね！ 3528件

ログインすると「いいね！」やコメントができます。

受賞団体（YSC）のInstagram投稿



Kyoto World Water Grand Prize 2024

賞金 ¥2,000,000 JPY

Pin止め投稿



see you on the next WORLD WATER FORUM!

(2024受賞団体) Youth Sanitation Concern (YSC, インドネシア)



既存衛生施設の浄水状況確認作業の様子

1. 京都世界水大賞受賞を機に財団設立

- ・受賞を機に「サガラシタ・インドネシア財団」を設立。
信頼性向上・資金調達・事業拡大を実現。

2. 衛生施設の改善と拡充

- ・公衆トイレの維持管理体制の強化（衛生施設を管理する地域住民組織（CBO）と連携・予算増加）
- ・新規給水ポンプ設置で衛生施設への水供給を改善（右図）。
- ・沿岸地域の衛生施設の有効性調査を実施し、将来のインフラ整備の基礎データを収集。

3. 日本企業との連携の実現

- ・衛生関連事業ケース1：バンドル・ランブンで節水型トイレの導入を進め（下図）、2025年1月に完成。
直後の洪水でも機能を維持し、災害対応の重要性を証明。
- ・衛生関連事業ケース2：衛生イノベーション・気候変動適応に関する協力を検討中。

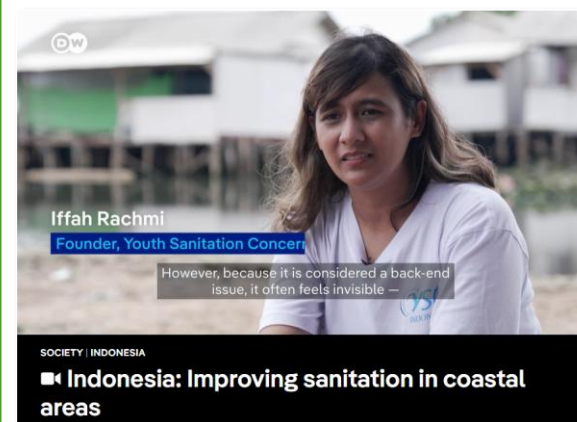
4. メディアの注目

- ・DWドイツ：YSCの沿岸地域の衛生改善活動を集録(右下図)。
- ・Kompasインドネシア：アート・音楽を活用し、衛生に関する意識を高める「ミュージック・リバーサイド」衛生啓発キャンペーンを取材。



浄化槽設置作業の様子

海外メディアの反応（DWドイツ）



ドイツ メディアによるインタビュー
(Deutsche Welle社からのインタビュー)



(2022受賞団体) Pragati (Koraput, インド)

1. 京都世界水大賞2022を受賞

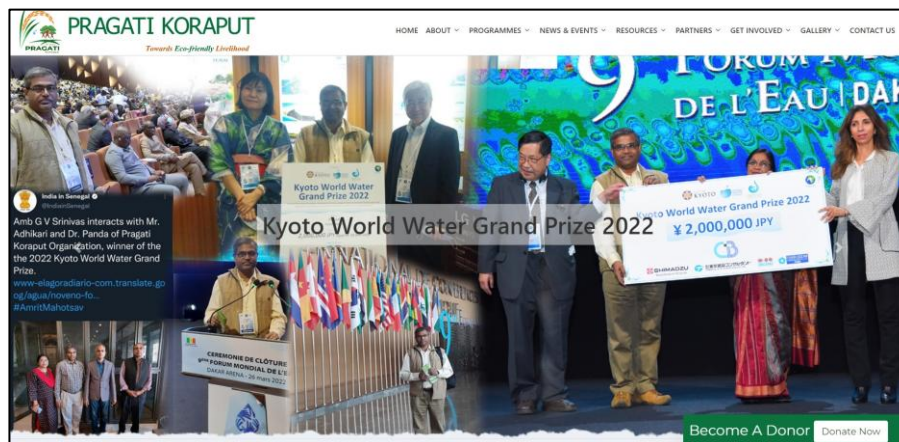
- ・太陽光を利用したかんがい農業の推進と、安全な飲み水の確保のためのプロジェクトが「伝統と革新の調和」と「文化とコミュニティに寄与し持続可能な活動」として高く評価された。
- ・自然エネルギーの活用により、水問題のみならず、環境負荷削減にも寄与された。

2. その後の2024年世界水フォーラムにも参加 (有志)

- ・日本パビリオンのセッションにも参加し、京都世界水大賞の意義等について語ってくださった。
- ・京都世界水大賞の賞金により、プロジェクトをさらに進展することができた。
- ・2024年受賞団体 (YSC) との関係も構築され、草の根受賞者同士の新たなつながりが形成された。

3. 2023年には州知事より表彰

- ・インド・オディシャ州コラプット地区に拠点を置くPragati、事務局長であるPrabhakar Adhikari氏がオディシャ州の州知事Prof. Ganeshi Lal氏より表彰された。
- ・森林保全と部族の生活向上への貢献について称えられた。



Pragatiのホームページには今でも京都世界水大賞2022の様子がトップで掲載

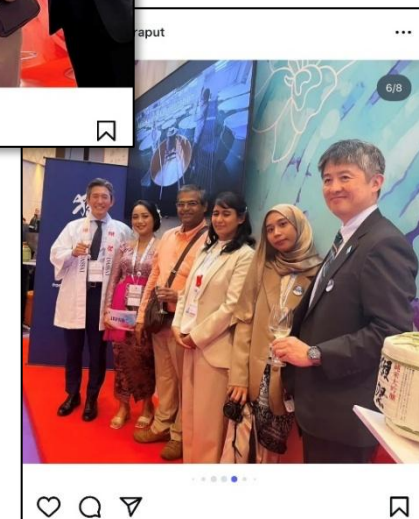
日本パビリオンにて (WWF10)



日本パビリオンにて演説
(Prabhakar Adhikari氏)



PragatiのInstagram投稿
(JWF, YSC, 株式会社瀬祭と撮影)



第11回世界水フォーラム (サウジアラビア・リヤド)

第1回準備会合 2025.04.25~26



【開催状況 (開催地・参加国・参加者数)】*主催者発表

第1回	(1997) モロッコ	63か国	500人
第2回	(2000) オランダ	114か国	5,700人
第3回	(2003) 日本	183か国	24,000人
第4回	(2006) メキシコ	168か国	19,700人
第5回	(2009) トルコ	192か国	30,000人
第6回	(2012) フランス	173か国	35,000人
第7回	(2015) 韓国	168か国	40,000人
第8回	(2018) ブラジル	172か国	10,000人
第9回	(2022) セネガル	(未発表)	
第10回	(2024) インドネシア	160か国	75,000人
第11回	(2027) サウジアラビア	(開催予定)	

- ・世界水フォーラムは、国際NGOである世界水会議（WWC）が開催国と共に、3年に一度、世界水の日（3月22日）前後に開催される、**水に関する世界最大級の国際会議**です。世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題への対処について議論します。第3回の日本開催を契機に参加国数、参加者数が増え、注目度が高まりました。
- ・多くの参加者が水をテーマに集まる世界水フォーラムにおいて、日本が有する経験・技術を発信し、SDGs等の国際目標達成への貢献や世界の水問題の解決への貢献を通じ、日本の存在感を国際社会に示すとともに、水関連技術の海外展開に資することを目的としています。

【第11回世界水フォーラムについて】(予定)

期間：2027年3月22日(月)～27日(日)

主催：世界水会議（WWC）、サウジアラビア政府

開催地：サウジアラビア リヤド

(リヤド・フロント・エキシビション&カンファレンス・センター (RFECC))

テーマ：Action For A Better Tomorrow



(左) 皇太子殿下(当時)による基調講演(第8回)



(右) 天皇陛下によるビデオ基調講演(第10回)



(左・中央) 日本パビリオン
出展ブース

(右) セッションの様子